

むかし、むかし、小さい女の子がありました。この子には、お父さんもお母さんありませんでした。

たいへんびんぼうでしたから、しまいには、もう住むにも部屋はないし、もうねるにも寝床*がないようになりました。とうとうおしまいには、①体につけたもののほかは、手に持ったパンひとかけきりで、それもなさげぶかい人がめぐんで**くれたものでした。

でも、この子は、心のすなおな、信心のあつい***子で
ありました。

それでも、こんなにして世の中からまるで見すてられてしまっているの、この子は、やさしい神さまのお力にだけすがって、ひとりぼっち、野原の上を歩いて行きました。

すると、そこへ、びんぼうらしい男が出て来て、「ねえ、何か食べるものをおくれ。おなかですいてたまらないよ。」と言いました。

②女の子は、持っていたパンひとかけ残らず、その男にや
つてしまいました。そして、「どうぞ神さまのおめぐみのあ
りますように。」と、いのつてやって、また歩きだしまし
た。

すると、こんどは、子どもがひとり泣きながらやって来
て、「③あたい、頭が寒くて、こおりそうなの。何かかぶる
ものちょうだい。」と言いました。

そこで、女の子は、かぶっていたずきんをぬいで、子ども
にやりました。

ことば * 寝床：ねるための場所。

** めぐむ：困っている人に、食べ物などをあげる。

*** 信心のあつい：神さまなどを深く信じている。

もんいち
問一

―①のときの女の子の様子に合うものを、一つ選びましょ
う。
ア 住む部屋はないが、食べ物たくさん持っている。
イ 着ているものとパンひとかけだけを持ち、住む部屋もな
い。
ウ 着るものはないが、あたたかい寝床がある。
エ 部屋も食べ物もあるが、ひとりで旅をしている。

こたえ

もんに
問二

―②の中から、女の子がパンを
ぜんぶ全部わたしたと分かる言葉を、
三文字で抜き出しましょう。

もんさん
問三

女の子がずきんをわたしたの
は、―③の子どもが何に困って
いたからですか。

それから、女の子がまた少し行くと、こんど出て来た子どもは、①着物一枚着ずにふるえていました。そこで、自分の上着をぬいで着せてやりました。

それからまた少し行くと、こんど出て来た子どもは、スカートがほしいと言うので、女の子はそれもぬいで、やりしました。

そのうち、女の子はある森にたどり着きました。もう暗くなっていたましたが、また、もうひとり子どもが出て来て、肌着*をねだりました。

あくまで心のすなおな女の子は、（もうまっ暗になっていたから、だれにも見られやしないでしょう。いいわ、肌着もぬいであげることにししましょう。）と思つて、②とうとう肌着までぬいで、やってしまいました。

さて、それまでしてやって、それこそ、ないといつて、きれいさっぱりなくなつてしまつたとき、たちまち、高い空の上から、お星さまがばらばら落ちて来ました。

しかも、それがまつたくの、ちかちかと白銀色をした、ターレル銀貨**でありました。そのうえ、ついでしたが、肌着をぬいでやつてしまつたばかりなのに、女の子は、いつものまにか新しい肌着を着ていて、しかもそれは、この上なくしなやかな麻**の肌着でありました。

③女の子は、銀貨を拾い集めて、それで一生ゆたかにくらしました。

ことば * 肌着：服の下に、はだにふれるように着るもの。

** ターレル銀貨：昔、ドイツなどで使われた銀のお金。白銀色は白くかがやく銀色。

*** 麻：ここでは、植物のせんいから作った布。

もんいち
問一

―①の子どもに、女の子は何をしましたか。一つ選びましょ
う。

ア ずきんをぬいで、かぶせた。

イ スカートをぬいで、わたした。

ウ 上着をぬいで、着せた。

エ 森の中の家へ、連れて行った。

こたえ

もんに
問二

この回で―②までに、女の子が
三人の子どもにしたことには、
どんな共通点がありますか。
「自分」「ぬいで」を使って書
きましょう。

こたえ

もんさん
問三

―③までの出来事の順番に合うものを、一つ選びましょ。
ア 銀貨を拾う ↓ 肌着をあげる ↓ 星が落ちて来る
イ 肌着をあげる ↓ 星が落ちて来る ↓ 銀貨を拾う
ウ 星が落ちて来る ↓ 肌着をあげる ↓ 銀貨を拾う
エ 肌着をあげる ↓ 銀貨を拾う ↓ 星が落ちて来る

こたえ

問3

解答例：頭が寒くて、こおりそうだったから。

本文のどこを見るか

傍線③の子どもの言葉。

考え方

相手の困りごとと、それに合うずきをわたした行動をつなぐ。

採点ポイント

頭が寒いという困りごとが書けていれば正解。「頭が寒く、かぶるものがなかったから」も可。「寒かったから」だけなら、体のどこが寒いのか確かめる。「泣いていたから」だけでは困りごとの内容が足りない。

問2

正解：残らず

本文のどこを見るか

傍線②の一文。

考え方

「残らず」は全部という意味。パンがひとかけだけだったことと合わせると、自分の分も残さずわたしたと分かる。

採点ポイント

本文どおり「残らず」の三文字で正解。「全部」は意味は合うが、抜き出しの条件には合わない。本文に戻って同じ意味の言葉を探すよう促す。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線①と、その前の「住むにも部屋はない」「寝床がない」。

考え方

持っているものと、持っていないものを分けて確かめる。女の子自身も困っている状況を読む。

誤答の理由

ア：食べ物パンひとかけだけ。

ウ：体につけたものはあるが、寝床はない。

エ：住む部屋も、十分な食べ物もない。

問3

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線②から傍線③まで。

考え方

肌着をあげる、星が落ちて来る、銀貨を拾うという出来事を、本文に出て来た順に並べる。

誤答の理由

ア：銀貨を拾うのは、肌着をあげた後。

ウ：星が落ちて来るのは、肌着をあげた後。

エ：銀貨を拾うのは、星が落ちて来た後。

問2

解答例：自分が着ているものをぬいで、子どもたちにわたした。

本文のどこを見るか

この回の上着、スカート、肌着をわたした三つの場面。

考え方

それぞれの衣服の名前だけでなく、どの行動にも共通する点をまとめる。

採点ポイント

① 自分が着ているものをぬいだこと。

② それを子どもたちにわたしたこと。

二点で正解。「自分の服をぬいで、ほしがる子にあげた」も可。指定語の確認と内容の理解は分けて扱う。「やさしくした」だけなら、具体的な行動を書き足すよう促す。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線①のすぐ後「自分の上着をぬいで着せてやりました」。

考え方

出会った子どもと、わたしたものを対応させる。

誤答の理由

ア：この子どもにわたしたのはずきんではない。

イ：スカートは、その次の子どもにわたした。

エ：家へ連れて行ったとは書かれていない。

使い方・出典・教材制作

星の銀貨／小学3・4年生向け

印刷と使い方

全7ページ。児童用：1～4ページ、解答・解説と出典：5～7ページ。A4横向き・片面・実際のサイズ（100％）で印刷します。児童用のみなら1～4ページを指定してください。各回の本文を上、問題を下に並べます。

問題の構成

第1回：4択・抜き出し・短答。第2回：4択・記述・4択。各回の本文を見ながら解いて構いません。抜き出しは三文字のマス、短答と記述は縦書きの線に沿って答えます。

読み方と採点

その回に書かれた出来事や行動を根拠に考えます。第2回の記述は、衣服の名前を一つずつ挙げるだけでなく、三つの行動に共通する点をまとめます。指定語と内容理解は分けて確かめます。

指導のポイント

女の子自身の状況と、相手への行動を結びつけて読みます。「全部あげることが正しい」「よいことをすれば必ずお金がもらえる」と一般化せず、この物語の人物が何をし、何が起きたかを扱います。

本文の扱い

提供された青空文庫本文をもとに、一部の表記、句読点、会話の括弧、段落を小学生向けに整えました。ふりがな・注釈・傍線と、全2回の区切りは教材用です。原文そのままの転載ではありません。

作者・作品

作品：『星の銀貨』
原題：DIE STERN TALER
作者：グリム兄弟
翻訳：楠山正雄

出典情報

底本：『世界おとぎ文庫（グリム篇）森の小人』
小峰書店
1949（昭和24）年2月20日初版発行
1949（昭和24）年12月30日4版発行
入力：大久保ゆう
校正：浅原庸子
2004年6月16日作成
2005年11月12日修正

出典の確認先

青空文庫
<https://www.aozora.gr.jp/>
書誌・入力校正情報は、提供された青空文庫作成ファイルの末尾に基づきます。
底本の表記は、青空文庫の作業指針に基づき現代表記に改められています。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン